

北陸新幹線開業記念
没後30年

鴨居玲展

踊り候え

REY CAMOY

RETROSPECTIVE:
ON THE 30TH ANNIVERSARY
OF HIS DEATH

2015.

5.30.SAT » 7.20.MON

東京ステーションギャラリー TOKYO STATION GALLERY

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 TEL.03-3212-2485
<http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

開館時間：10時～18時（金曜日は20時まで開館／入館は閉館の30分前まで） 休館日：月曜日（7月20日を除く）

入館料：一般900円／高校・大学生700円／中学生以下無料

*20名以上の団体は100円引き *障がい者手帳等持参の方は100円引き、その介添者1名は無料

主催：東京ステーションギャラリー〔公益財団法人東日本鉄道文化財団〕、毎日新聞社 企画協力：公益財団法人日動美術財団

《出を待つ（道化師）》1984年 個人蔵

Rey Camoy

電車も入館もお買い物も。

Suica で、東京ステーションギャラリーへ。

JR
JR東日本

没後30年を迎える洋画家、鴨居玲の東京では25年ぶりとなる回顧展を開催いたします。金沢出身の鴨居玲(1928-1985)は、金沢美術工芸専門学校(現在の金沢工芸大学)に入学し、宮本三郎に師事、在学中二紀展に初入選します。しかし、その後の制作は思うに任せず、南米、パリ、ローマを放浪し、懊悩しながらも模索を続け、1969年に《静止した刻》で、新人洋画家の登竜門であった安井賞を受賞しました。

1971年、スペインに渡り、「ドン・キホーテ」の舞台となったラ・マンチャ地方のバルデペーニャスを「私の村」と呼び親しんで、素朴で陽気な人々と交流し、酔っぱらい、廃兵、老人といったモチーフと巡り合い、代表作が誕生しました。

この地で人生最良のときを過ごしたものの、生来の放浪癖から、トレド、マドリッド、パリと居を移し、画業の面では順調であるかに見えますが、心の中は満たされず、寂寥感に苛まれ、1977年に帰国。終焉の地、神戸で残した作品群は、鏡に自分の姿を映し、人間の心の闇——不安、孤独、悲哀、絶望、醜悪——を鋭く抉り、さらけ出した自画像といわれます。

本展では、57年の生涯で、心身を削るように描いた油彩の代表作をはじめ、素描、遺品など約100点を一堂に展示します。人間の内面を見つめ、自己の存在を問い続けた鴨居玲の作品は、今もなお、見る者の心に強く訴えかけます。多くの人を惹きつけてやまない崇高な芸術世界を、どうぞご堪能ください。

ギャラリートーク(学芸員による展覧会解説)

日時 6月5日(金)、6月26日(金) 15:00~(約30分)
3階展示室集合
参加無料(要別途入館料)
*混雑時には中止することがあります

レンガ・タッチ&トーク (煉瓦が特徴的な当館のたても解説)

日時 6月12日(金)、7月3日(金)、7月10日(金)
18:00~(約20分)
1階エントランス集合
参加無料(要別途入館料)
定員=各回15名
*当日、1階受付にてお申込みください

次回以降の展覧会

北陸新幹線開業記念
交流するやきもの 九谷焼の系譜と展開
2015年8月1日(土)~9月6日(日)

『月映』 田中恭吉 藤森静雄 恩地孝四郎
2015年9月19日(土)~11月3日(火・祝)

鴨居玲展

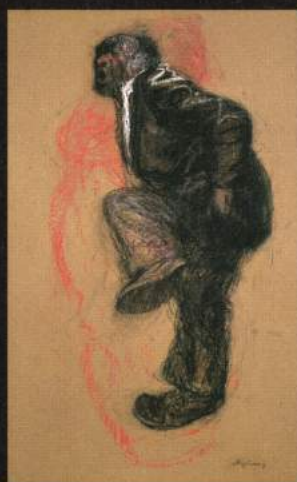
北陸新幹線開業記念
没後30年



《1982年 私》1982年 石川県立美術館所蔵



《静止した刻》1968年 東京国立近代美術館所蔵



《踊り候え》1979年 個人蔵



《勳章》1985年 笠間日動美術館所蔵



《眠》1976年 個人蔵



《教会》1976年 ひろしま美術館所蔵



《おっさん》1973年 個人蔵

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
TEL.03-3212-2485
<http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>
交通: JR 東京駅 丸の内北口 改札前

